

# OBON 2015

個人の遺留品をご遺族の元へ



誰でも一人一人に家族がいます

## OBON 2015 の近況

8月は、多くのお問い合わせを頂き、OBON 2015 にとって忙しい月でした。

今後は、お問い合わせの数もさらに増えるのではないかと予想しています。

今月のニュースレターでは、OBON 2015 の最近の活動と一部その舞台裏をご紹介します。興味をもたれそうなお知り合いには、ぜひ、このニュースレターを転送してください。

### 目次

Page 2: 大使館からのお手紙

Page 3: 魚雷艇 109 号

Page 4: 出征前の集合写真

Page 5: 調査の一例

Page 6: 連絡先・寄付のお願い

## 駐日米国大使館

戦時の遺留品を日本へ返還する我々の活動に対し、今年のはじめ、駐日米国大使からお手紙を頂きました。

日米両国の家族間の和解を目指す OBON 2015 の活動に対して頂いたものですが、その中で、ケネディ元大統領と魚雷艇 109 号の逸話が言及されていました。

ジョン・F・ケネディ元大統領がいかに日米の和解・友好に尽力したか、キャロライン・ケネディ駐日大使は度々スピーチの中で言及されます。その好例として、彼は自分の魚雷艇を沈没させた日本海軍の艦長を大統領就任式に招待しています。

ケネディ元大統領が取り組んでいた和解と友好の精神を、OBON2015 は受け継ぎ実践しています。あなた方の活動は、慈愛や互惠の精神といった日米両国が共有している価値観の力強い象徴となっています。

2014 年 1 月 10 日、アメリカ大使館から OBON 2015 に頂いた手紙



写真上：高速で走る魚雷艇

写真右：海軍士官時代のジョン・F・ケネディ氏(1942～1943 年頃に撮影したと思われる)

ケネディ元大統領の就任式の話には少し驚きました。具体的な内容が分からなかったため、その背景を少し調べてみました。



訳注：第 35 第合衆国大統領ジョン F ケネディ氏は、キャロライン・ケネディ駐日大使の実父です。お手紙の全文および翻訳はこちらからご覧になれます。 <http://www.obon2015.com/id-3.html>



“ケネディ元大統領が取り組んでいた和解と友好の精神を、  
OBON2015 は受け継ぎ実践しています。”

一連の太平洋での戦いに於いて、ソロモン海域は戦略的に重要な拠点でした。日本軍は増援を夜間海上輸送し、米軍の魚雷艇は、それを阻止し撃沈しようとしていました。

1943年8月2日深夜、駆逐艦「天霧（あまぎり）」（艦長：花見弘平少佐）は、小さな魚雷艇と衝突しました。この衝突によって、魚雷艇の船体は二つに割れ、7人の乗員が死亡、他の3名は海中に投げ出されました。

魚雷艇の指揮官は、船の沈没後も諦めず、負傷者を背負いながら、残りの生存者と共に、数キロ離れた島に泳ぎ着きました。その後、友軍の救助艇に発見され、生還することが出来ました。

17年後、この不屈の指揮官はアメリカ合衆国の大統領に選ばれます。両国の元兵士達に敬意を表し、また日米の和解を誇示するため、ジョンFケネディ氏は、1961年1月20日、ワシントンDCで行われた大統領就任式に、花見弘平氏を招待しました。



花見弘平少佐



旧日本海軍駆逐艦「天霧」



魚雷艇 109 号の乗組員  
(ケネディ少尉は、右側)



ジョンFケネディ大統領

## 出征直前の肖像画

OBON2015 は、様々な日章旗をお預かりしますが、時として、寄せ書きに全く予期しなかったような名前を見つけることがあります。普通、寄せ書き日の丸には、親族や隣人の名前が記されているのですが、時には、十代のいたずら書きのようなものも見受けられます。

これらの寄せ書き日の丸は、10代の若者が出征する直前に書かれたものと思われま  
す。多くの大学生・高校生が学業を中断し、祖国を守るために兵役に就きました。

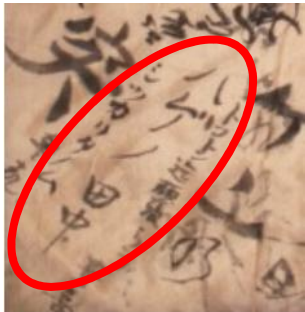
たとえば、米軍の日本本土侵攻に備え、1945年2月26日、15～60歳の健康な男性150万人が招集されました。その中には学業を諦め、代わりに軍服をまとった若者が多く含まれていました。



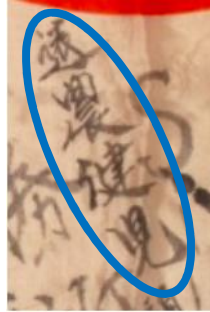
出征する級友のために撮られた集合写真。出征する兵士は、寄せ書き日の丸を手に持っています。

# 調査の一例

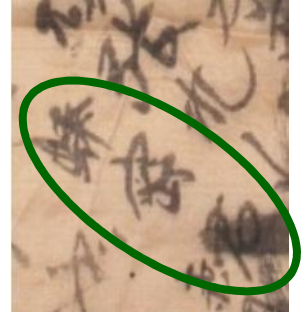
この寄せ書き日の丸は、まるで学校の卒業文集のように、いろいろな落書きがあります。その多くは十代の若者によって書かれたと、我々の調査員は推測しています。



「ハゲノ田中」親友をからかうつもりで書いたのでしょうか。あるいは、入隊前に短かくした髪形のことを指しているのかもしれませんが。



「遠農健児」一見無意味な言葉に見えますが、調査員は、これは手がかりであると考えました。調査が進むに従い、これは福岡県にある「遠賀農学校」の略であると判明し、出征する兵士の母校でもあることが確認されました。



「蜂蜜君」これも何かの手がかりになるかもしれません。調査員によると、福岡県は、蜂蜜の生産と養蜂の盛んな土地です。出征する兵士の地元のことを示しているのかもしれませんが、家業のことかもしれません。

上記はほんの一例ですが、これらの落書きは、書き手が十代の若者であったことを示唆しています。家族、仕事場の仲間によって記された寄せ書き日の丸は、通常、このようなくだけた書き方はしません。また、乱雑な文字の配列や筆跡からも、これらの書き手が十代であったことが覗われます。

訳者注：その後の調査で、この日章旗の持ち主が判明し、ご遺族に返還することができました。ご協力頂きました関係者の方に深く感謝申し上げます。

<http://www.obon2015.com/id/2014-0408-return.jpg>

## 寄付のお願い・連絡先

当団体は、皆様からの寄付により活動しています。

宛先

アメリカ在住の方（501(C)3を通じた税金控除の対象となります）

**AVA/OBON Society**  
**P.O. Box 282**  
**Astoria, Oregon 97103**

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

記号：14450 番号：16577781  
名前：OBON ニセンジュウゴ

<他金融機関からの振込>

振込先銀行名：ゆうちょ銀行  
店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448  
口座番号：1657778  
口座名：OBON ニセンジュウゴ

（「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBON ソサエティの前身名です）

皆様から頂いた寄付金により、より多くの遺品を返還することが可能になります。

日章旗をお持ちの方、また、所有されている方をご存知の場合は、当団体までご連絡ください。日章旗・その返還方法に関して、ご質問があれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。我々は日章旗の返還に、使命と情熱をもって、取り組んでまいります。

**OBON Society**  
P.O. Box 282  
Astoria, Oregon 97103  
contact@OBON2015.com

